

It is a small world! (世の中は狭い)

業務部企画調整課

今年も、英語圏からの J E T 参加者が来日しました。7月下旬から8月にかけて、昨年を上回る 1,600 人以上が新たに J E T の仲間になりました。

充実のオリエンテーション

新規来日者は全員、都内で「来日直後オリエンテーション」を受講しました。このオリエンテーションでは、J E T としての心構え、カルチャーショックへの対処法に加え、チームティーチングやイベント開催時のノウハウなどの職務に直結する職種別のカリキュラムも含まれています。

また、現役の J E T 参加者が「運営協力者 (T O A)」として、あるいは「J E T 参加者の会 (A J E T)」として運営に協力してくれました。A J E T は分科会も開催してくれましたが、特に A L T の自主性で授業計画を作る「レッスン・プランニング」は好評で、多くの参加者が感銘を受けていました。



全体オリエンテーションの様子



J E T 参加者の会 (A J E T) 分科会の様子

ルース駐日米国大使のスピーチ ～親子で外交官?～

来日直後オリエンテーションの期間中、在京大使館の中には、自国からの参加者を対象に歓迎会を開催してくれた国もあります。アメリカ合衆国は例年同様、会場となったホテル内で開催しましたが、今年はルース駐日大使がスピーチをされました。

数多いアメリカからの新規参加者を前にルース大使は、難関試験を潜り抜け、J E T として来日したことに対する祝辞の後、「子供に英語を教える A L T は、子供への影響力が非常に大きいことを忘れないでほしい。アメリカの実像を伝えてもらうことで、減少傾向にある日本からアメリカへの留学生の回復に一役買ってくればありがたい」という期待を述べられました。また、「草の根の国際交流」を行う J E T 参加者の役割についても言及され、「東日



ルース駐日米国大使

本大震災で亡くなった2名のアメリカ人は、いずれも地域でこよなく愛されたJET参加者だった。残念なことではあるが、別の見方をすればJET事業は日米関係の絆を強化するものとも言える。皆さんはまさに外交官であることを誇りに思って、アメリカの代表として活躍してほしい」と語りかけておられました。

また、ルース大使のご息は、日本で高校生活を過ごされた後、母国の大学に進学されており、卒業後には再来日を希望されているそうで、大使が「それならJETで来日してはどうか」と勧められたエピソードをご披露されると、参加者の喝采を浴びていました。数年後、息子さんが「ルース先生」として、どこかの学校で教鞭を執られるとしたら、親子2代で外交官として御活躍されることになりませんが、世の中、意外と狭いものです。

世界は広い、世の中は狭い

「ルース先生」ほどではなくても、日本への関心を持って参加する新規来日者の中には、日本と不思議な糸で繋がっている方もいます。たとえば福島県いわき市に配属となったダグラスさん。大学で音楽を専攻した彼は、カナダの首都・オタワからの参加です。連邦国家であるカナダは、各州が比較的強い権限を持っていることでも知られています。

ダグラスさんは「飲酒はケベック州では19歳から認められるが、(トロントやナイアガラの滝のある)隣のオンタリオ州では18歳からOKだ。だから、オタワ(ケベック州)では、ビールを飲むために橋を渡ってオンタリオ州に行く18歳もいる」と話してくれました。筆者が「日本は一律で20歳だ」と返すと彼は少し驚いた表情をしていましたが、さらに「この話をいわきの中学生に英語で話してくれないか」とお願いしたら、「面白いアイデアかもしれない」と笑っていました。川一本が隔てるこの違いに、教え子は「世界は広い」とびっくりすることでしょう。

ダグラスさんご自身は初来日ではあるものの、日本とは浅からぬ縁があるようです。以前知人が福島県で勤務をされていたそうで、「いわき市では、彼の同僚だった方々のお子さん達を教えることになるかもしれない。It is a small world!」と、めがねの奥の人懐っこい目を細くして笑った彼は、まだ見ぬ関係者との出会いを心待ちにしているようでした。

1,600人は研修の翌日、大きな夢と荷物とともに全国各地に旅立っていきました。クレアスタッフ一同、全員のご活躍をお祈りします。

最後になりましたが、TOAやAJETとしての参加に御理解と御協力をいただきました各任用団体の方々には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

(谷課長 千葉県派遣)